



## 2023年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2023年2月13日  
株式会社カクヤスグループ  
(証券コード：7686)

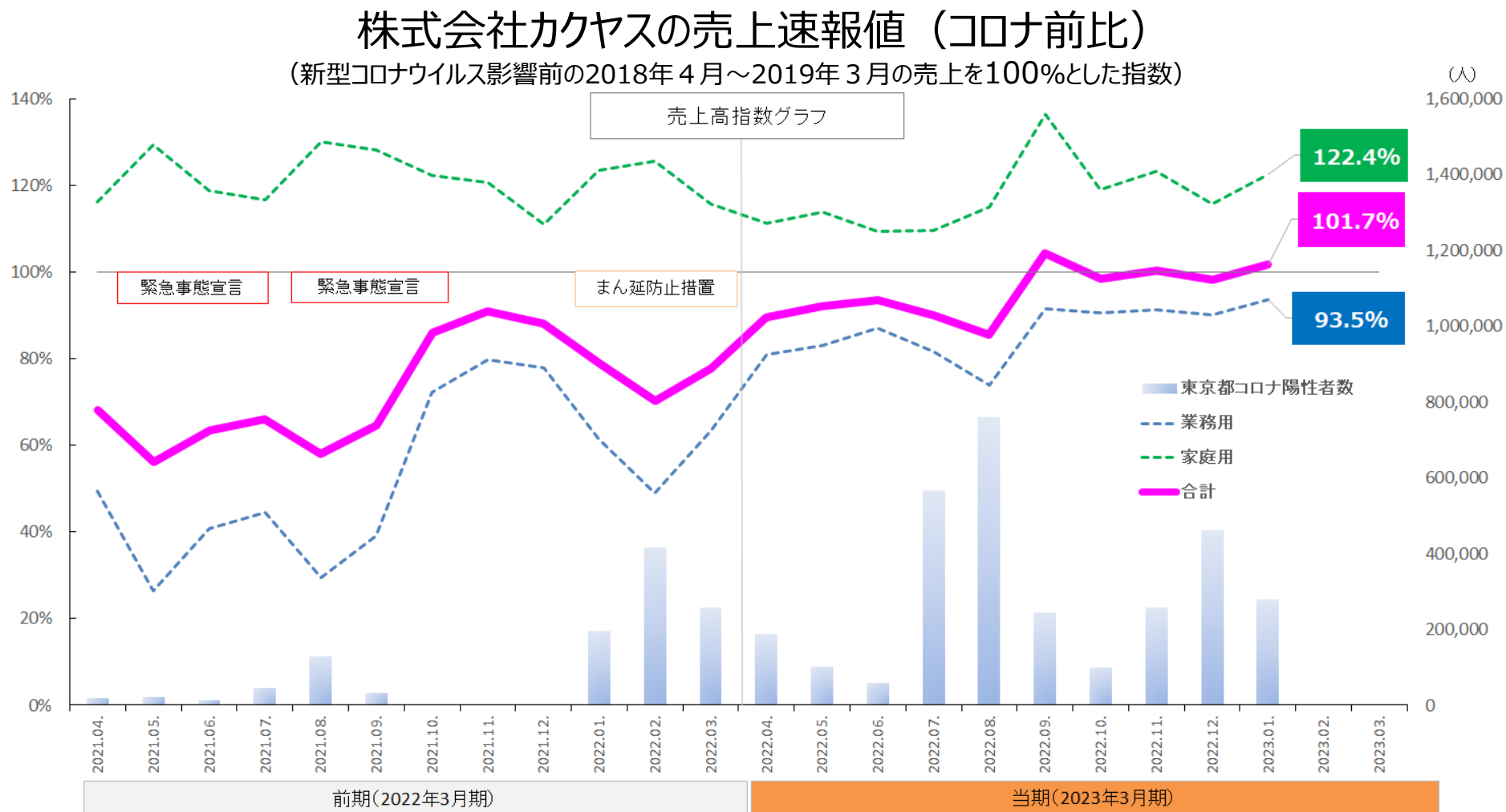
# 1. 2023年3月期 第3四半期 ハイライト

# 1. 2023年3月期 第3四半期 ハイライト

市場環境	<ul style="list-style-type: none"><li>• 旅行支援や海外旅行客の入国解禁等の行動緩和措置で人流が活性化し、飲食市場は回復へ。</li><li>• コロナ禍の収まりや政府による5類への移行措置も相俟って、今後インバウンド需要や花見等宴会需要の回復が期待できる。</li></ul>
業績進捗 及び 業績予想の下方修正	<ul style="list-style-type: none"><li>• 業績は大きく回復。増収、営業黒字復帰。</li><li>• もともと、3Qで営業利益、経常利益の黒字化を達成したものの、12月での業務用売上のマーケットの回復ペースが予想を下回ったことなどから、通期業績予想を下方修正する。→ P.20ご参照</li></ul>
トピックス	<ul style="list-style-type: none"><li>• 昨年10月の酒類価格の改定。</li><li>• PBシャンパン等の商品拡充、油・調味料等の販売強化。</li><li>• SNSの活用によるカクヤスブランドの認知拡大。</li></ul>

# 1. 2023年3月期 第3四半期 ハイライト – 月次売上高推移

- 足元、1月時点では売上高の回復が継続し、合計売上高はコロナ前比101.7%とコロナ前水準を超える。
- 業務用はコロナ前水準まで戻っていないものの、チェーン飲食店の客単価が前月に比べて改善し、全体的に回復基調。
- 家庭用は特に宅配の客数がコロナ前比134.2%と高く維持できており、全体的に客数、客単価ともにコロナ前水準を超える。



## 2. 2023年3月期 第3四半期 決算概要

## 2. 2023年3月期 第3四半期決算概要 – 連結損益計算書

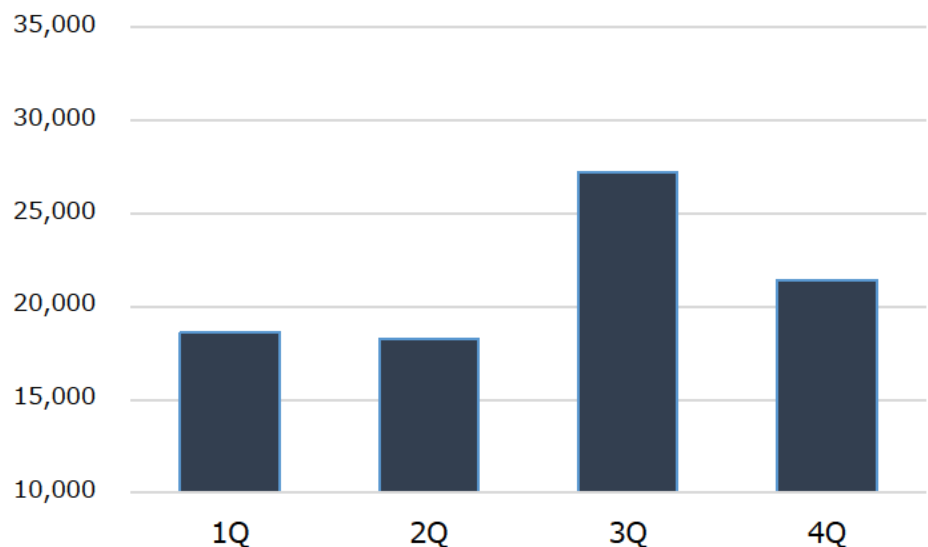
- 増収。営業利益、経常利益が黒字に回復。

(単位：百万円)

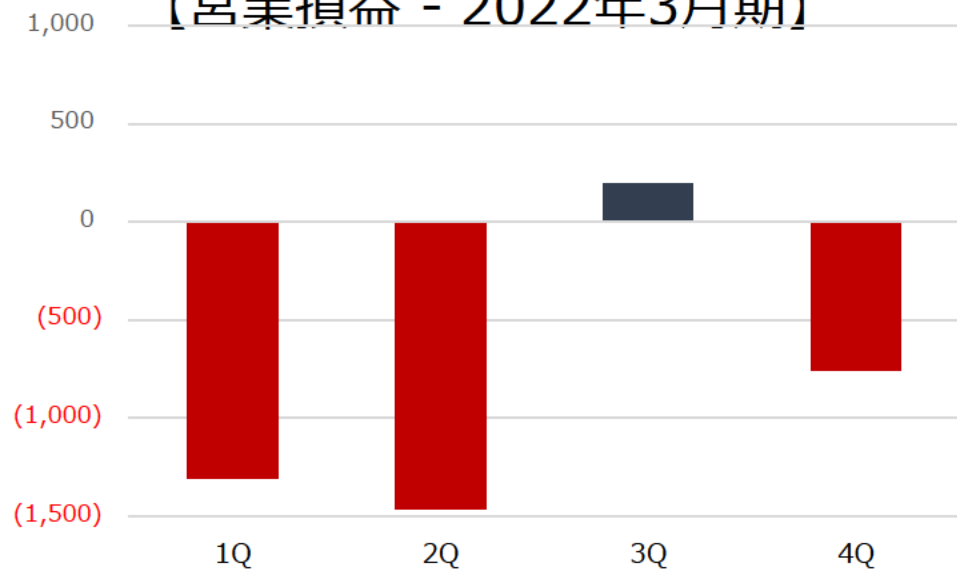
科目名	2022/3期 1Q~3Q累計	2023/3期 1Q~3Q累計	増減額	増減率
売上高	64,098	<b>84,708</b>	+20,610	+32.2%
売上総利益	13,651 21.3%	<b>18,120</b> 21.4%	+4,468	+32.7%
販売費および 一般管理費	16,224 25.3%	<b>18,015</b> 21.3%	+1,790	+11.0%
営業利益（損失）	▲2,572 -	<b>105</b> 0.1%	+2,677	-
経常利益（損失）	▲2,152 -	<b>100</b> 0.1%	+2,253	-
親会社株主に帰属する 当期純利益（損失）	▲1,761 -	<b>▲202</b> -	+1,558	-

## 2. 2023年3月期 第3四半期決算概要 – 四半期毎の業績推移

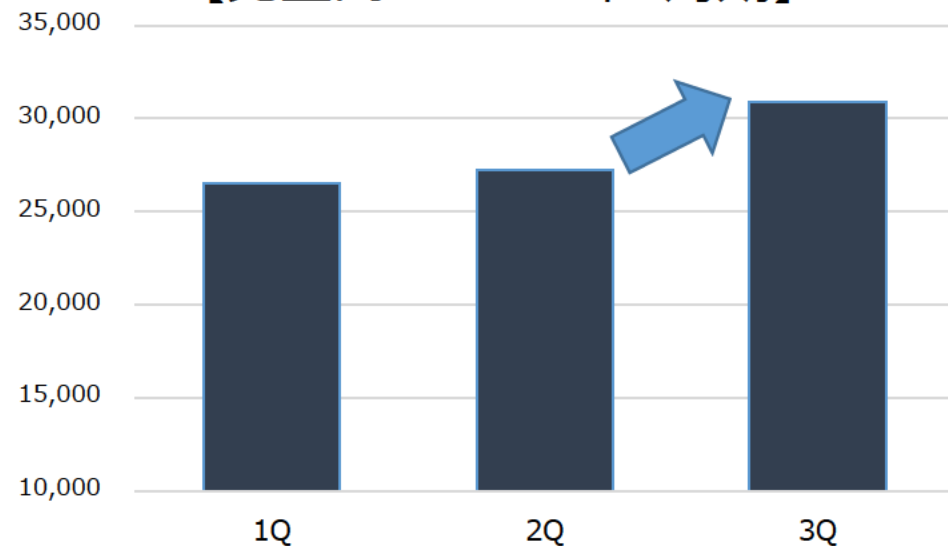
【売上高 - 2022年3月期】



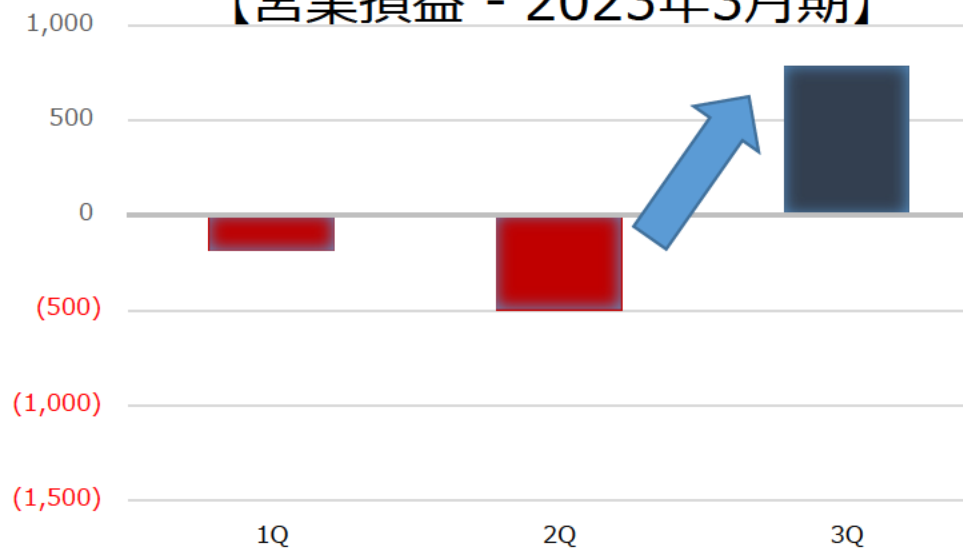
【営業損益 - 2022年3月期】



【売上高 - 2023年3月期】 (単位：百万円)



【営業損益 - 2023年3月期】



## 2. 2023年3月期 第3四半期決算概要 – 連結売上高区分

- 主力である業務用の売上高が大きく増収。
- 昨年10月からの酒類価格改定を受け、客単価が増加。

(単位：百万円)

	2022/3期 1Q~3Q 累計	2023/3期 1Q~3Q 累計	増減額	増減率		
				売上高	顧客数	客単価
業務	33,939	<b>55,175</b>	21,237	+62.6%	+21.1%	+34.3%
宅配	15,956	<b>15,587</b>	▲369	▲2.3%	▲5.5%	+3.4%
POS	13,289	<b>12,618</b>	▲672	▲5.1%	▲10.7%	+6.3%
卸	912	<b>1,326</b>	+414	+45.4%	—	—
合計	64,098	<b>84,708</b>	+20,610	+32.2%	—	—

### ▷業務

- 前年同期はコロナ禍で業務用の需要が冷え込んでいたが、今期は、全国旅行支援や海外旅行客の入国解禁など行動制限の緩和措置で人流が活発化し、主要顧客である酒類提供の飲食店等からの注文が大幅に増加。

### ▷宅配

- 前年同期は、緊急事態宣言下での家飲み需要を取り込んで売上が伸びたのに対し、コロナが落ち着いてくると家飲みが減るため、今期は前年並みには届かなかった。

### ▷POS

- 宅配の売上と似ており、コロナで昨年伸びた分、コロナが落ち着いてくると前年並みには届かなかった。



## 2. 2023年3月期 第3四半期決算概要 – サービス別売上高構成比

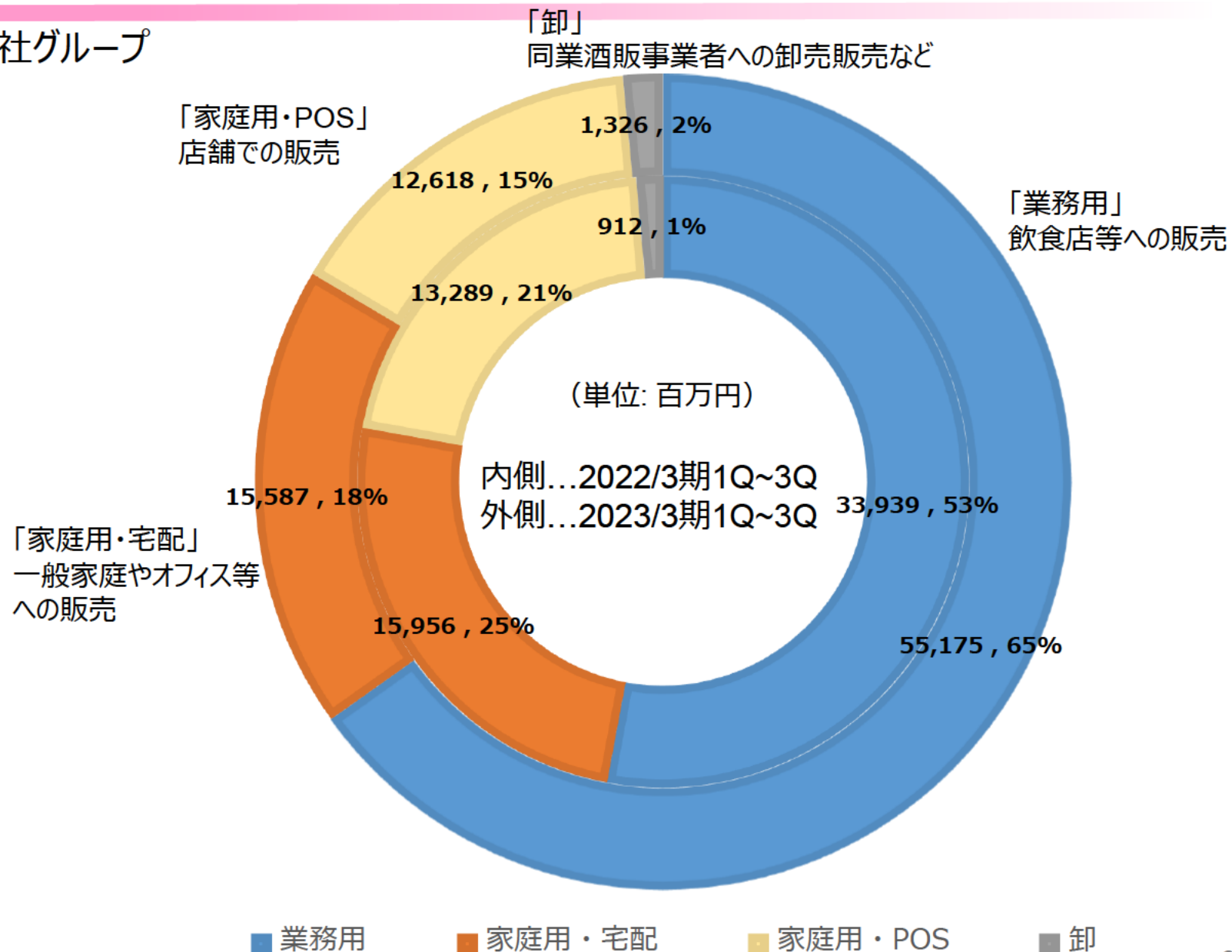
飲食店等向けの「業務用」売上高の変動が当社グループの収益に大きく影響する構造

【金額】（百万円）

	2022/3期 1Q~3Q累計	2023/3期3Q 1Q~3Q累計
業務用	33,939	55,175
家庭用・宅配	15,956	15,587
家庭用・POS	13,289	12,618
卸	912	1,326
合計	64,098	84,708

【構成比】

	2022/3期 1Q~3Q累計	2023/3期 1Q~3Q累計
業務用	53.0%	65.1%
家庭用・宅配	24.9%	18.4%
家庭用・POS	20.7%	14.9%
卸	1.4%	1.6%
合計	100.0%	100.0%



## 2. 2023年3月期 第3四半期決算概要 – 営業損益以下の変動

(単位：百万円)

	2022年3月期 1Q~3Q累計	2023年3月期 1Q~3Q累計	増減額	主な増減の内訳	
				2022/3期 1Q~3Q累計	2023/3期 1Q~3Q累計
営業損益	▲ 2,572	105	+ 2,677		
営業外収益	495	56	▲ 439	助成金収入…421百万円	助成金収入…14百万円
営業外費用	76	61	▲ 14	支払利息…43百万円	支払利息…47百万円
経常損益	▲ 2,152	100	+ 2,253		
特別利益	49	15	▲ 33		
特別損失	108	207	▲ 99	減損損失…90百万円	減損損失…200百万円
税金等調整前当期純利益	▲ 2,212	▲ 91	+ 2,120		
法人税、住民税及び事業税	38	67	+ 29		
法人税等調整額	▲ 488	43	+ 532	繰延税金資産計上…488百万円	
当期純利益	▲ 1,761	▲ 202	+ 1,558		
親会社に帰属する当期純利益	▲ 1,761	▲ 202	+ 1,558		

## 2. 2023年3月期 第3四半期決算概要 – 連結貸借対照表

- 増収、並びに、仕入増に伴い、売上債権・商品・仕入債務が増加。
- 自己株式329百万円は、2022年12月の株式給付信託（ESOP）の設定によるもの。

（単位：百万円）

	2022年3月末	2022年12月末	増減		2022年3月末	2022年12月末	増減
流動資産	15,540	23,581	+8,040	負債	26,233	34,348	+8,115
現預金	2,748	4,261	+1,512	仕入債務 *2	11,393	17,970	+6,576
売上債権 *1	5,586	9,806	+4,219	有利子負債 *3	11,765	11,306	▲459
商品	4,274	5,806	+1,531	その他負債	3,074	5,072	+1,997
その他	2,930	3,706	+776	純資産	2,307	1,946	▲361
固定資産	13,000	12,714	▲286	株主資本 *4	2,230	2,179	▲50
有形固定資産	7,160	7,175	+15	自己株式	▲0	▲329	▲329
無形固定資産	2,050	1,792	▲258	その他包括利益累計額	77	97	+19
投資その他の資産	3,789	3,746	▲43	負債・純資産合計	28,541	36,295	+7,753
資産合計	28,541	36,295	+7,753				

\*1 売上債権：受取手形及び売掛金

\*2 仕入債務：買掛金

\*3 有利子負債：短期借入金、長期借入金、リース債務

\*4 自己株式を除く株主資本

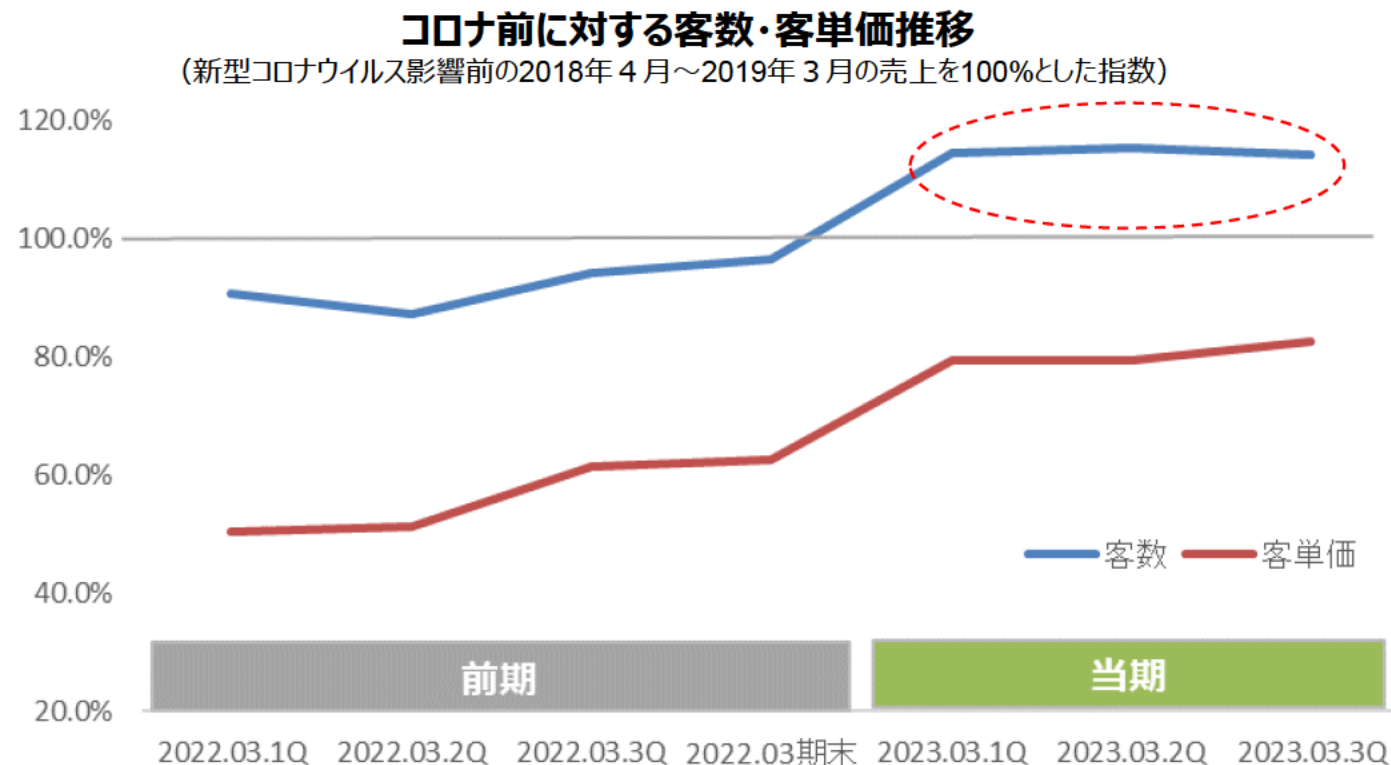
### 3. 売上区分別概要

### 3. 売上区分別概要 – 業務用

業務用

(1) 客数・客単価推移

- 客数については、個人飲食店を中心に回復基調、当期に入りコロナ前を超え、二桁成長を維持。
- 客単価については、回復が遅れていたが、徐々に回復。



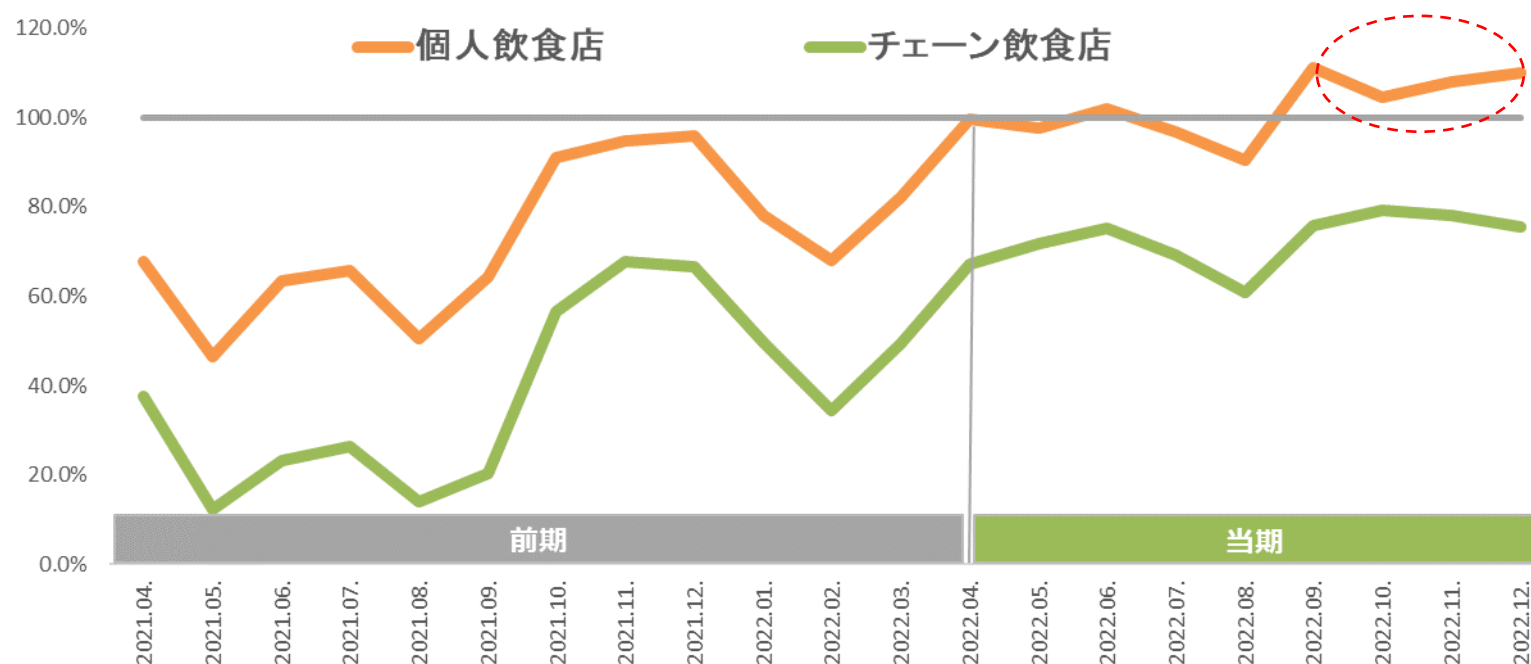
### 3. 売上区分別概要 – 業務用

業務用

(2) 業態ごとの売上推移

- 業態ごとの売上推移については、コロナ禍にサービスの維持・新規獲得に注力したことで、個人飲食店を中心に売上は回復に向う。特に当期に入ってから、9月のメーカー値上げ前の駆け込み需要を境に個人飲食店はコロナ前を超え、堅調に推移。
- 一方、チェーン飲食店では、客数は回復傾向にあるものの、客単価は引き続き大人数（企業）での飲み会の減少等の影響から、未だコロナ前までの売上水準には及ばず。

コロナ前に対する業態別売上推移  
(新型コロナウイルス影響前の2018年4月～2019年3月の売上を100%とした指数)



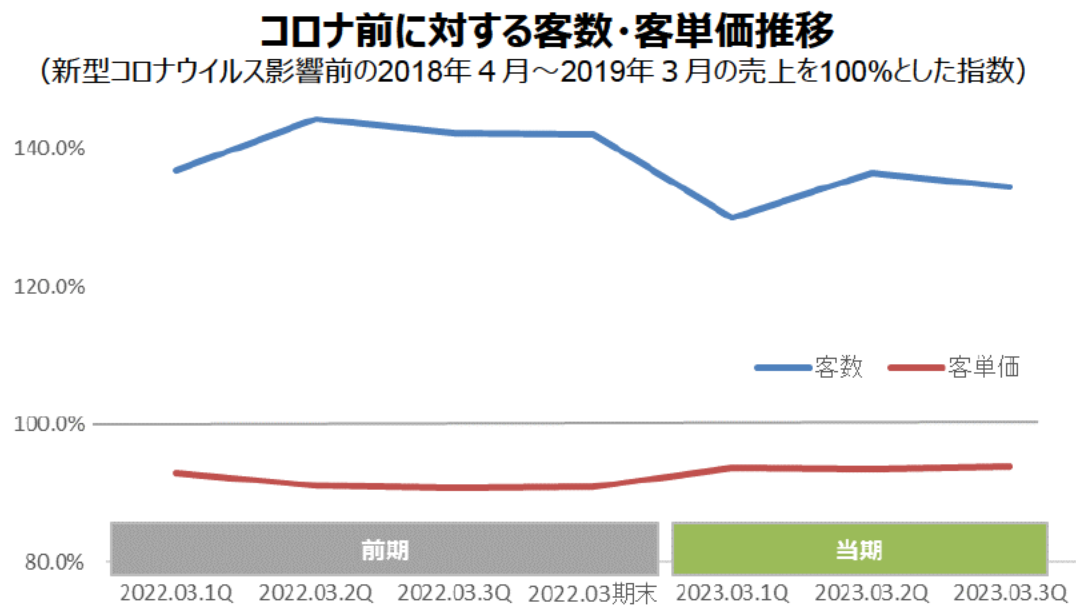
### 3. 売上区分別概要 – 家庭用

#### 家庭用

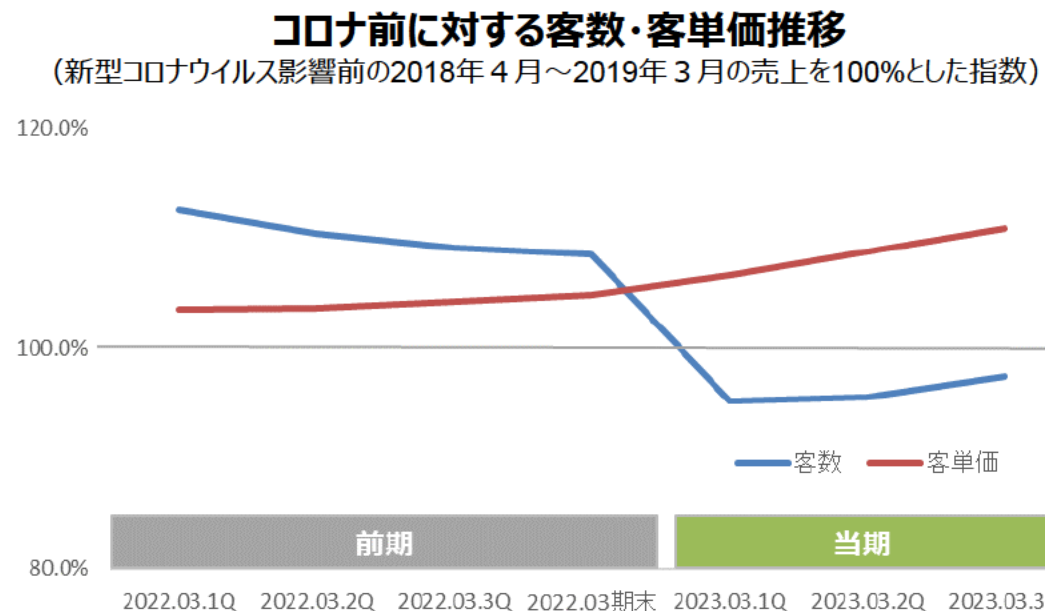
#### (1) 宅配・POS 客数・単価推移

- 【宅配】
  - 客数は、外食自粛の緩和による外飲み需要の増加で減少したものの、2ケタ伸長を維持。
  - 客単価は、コロナ前と比べ大口の注文（パーティー・納会需要等の法人宅配）が減っていることで、コロナ前を下回る。
- 【POS】
  - 客数は、外食自粛の緩和による外飲み需要の増加で減少に転じ、コロナ前の水準を下回る。
  - 客単価は、前期よりコロナ前を上回り、堅調に推移。

#### 【宅配】客数・単価推移



#### 【POS】客数・単価推移



## 4. 第三四半期の主な事業上のトピックス



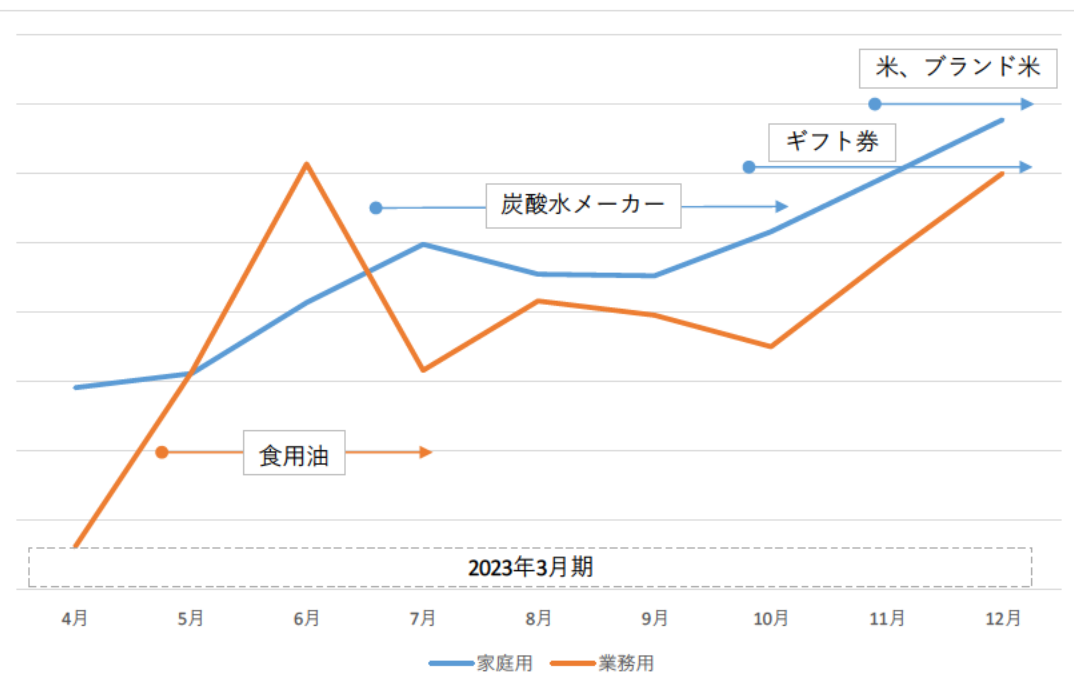
# 4. 第三四半期の事業上のトピックス

## カクヤス社 (1) 品揃え強化

- 業務用：飲食店様のニーズの変化に応じ、酒類以外の商材や自社専売商材の追加・強化を実施。強化した商材は、酒類以上に粗利率が高い商品が多いことから、業務用全体の粗利率向上を図る。
- 家庭用：酒類に限らない新たなカテゴリー商品の品揃えを強化。コロナ禍で増加した顧客の困り込みを図る。

### 新規カテゴリ商品の売上推移

参考) カクヤス社単体



### 主な追加・強化商品

(業務用)



調味料  
(食用油等)

#### 自社輸入での専売シャンパン

品不足が続く「シャンパン」を商品の安定供給に向け、自社で輸入、販売。

(家庭用)



米

#### SANKO MAEKETING FOODS社との コラボ商品開発

酒類専門店ならではの目線でお酒との相性を追求し共同開発。当社グループならではの「業務用」と「家庭用」の顧客を繋げる取り組み。

## 4. 第三四半期の事業上のトピックス

### カクヤス社 (2) ブランド認知の拡大

- カクヤスブランドの認知拡大とロイヤルカスタマーの増加を目的に、SNSマーケティングに注力。
- 従来のカクヤスメールマガジンに加えて、新たな販促チャネルとして成長させ、SNSコミュニケーションに慣れている若年層へのリーチを拡大する。
- SNS主導の各種キャンペーンと連動して、主要駅での交通広告を実施。



なんでも酒やカクヤス【公式】@ビール1本から最短1時間で無料デリバリー

@kakuyasu\_shop

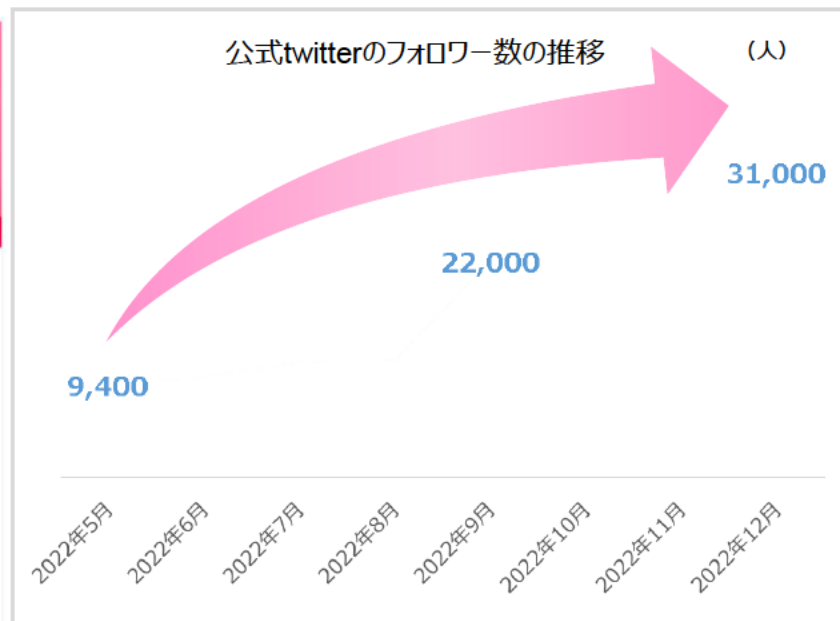
お酒・飲料・食料品・日用品・ペット用品など暮らしに欠かせない商品をお届けしているカクヤスです  
東京・神奈川・埼玉・大阪の指定エリア内は1本からデリバリー無料  
欲しいモノを欲しい時に欲しい分だけお届けしたい！便利で豊かな暮らしをサポートする情報を紹介していきます！

お問合せ bitly/3YEUMky

© 東京都北区豊島2丁目 kakuyasu.co.jp

2009年10月からTwitterを利用しています

3,659 フォロワー中 3.4万 フォロワー



8か月でTwitterのフォロワー数が3倍以上  
「親しみやすさ」をキーワードに各種キャンペーンと連動



東京、大阪、福岡の主要17駅で  
窓上3連デジタルサイネージ他、  
デジタルサイネージ広告を出稿



年末年始Twitterキャンペーン  
(X'mas～大晦日～お正月)  
リツイート総数：95万回RT

## 5. 通期業績予想について

## 5. 2023年3月期 通期業績予想の修正

3Qで営業利益、経常利益の黒字化を達成したものの、12月での業務用売上のマーケットの回復ペースが予想を下回ったことなどから、通期業績予想を下方修正する。

(単位：百万円)

	A	B	C	B/C	(ご参考)
	1Q~2Q連結実績	1Q~3Q連結実績	修正後 通期連結業績予想	進捗率	当初 通期連結業績予想
売上高	53,797	84,708	114,000	74.3%	120,741
営業利益	▲684	105	400	26.3%	906
経常利益	▲688	100	400	25.0%	827
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲780	▲202	200	-	592

## 6. 今後の課題と取り組み

## 6. 今後の課題と取り組み

事業遂行上の課題	
新型コロナウイルス感染症の流行	重症化率や死亡率の低下に加え、感染症法上の分類引下げの状況にあるものの、コロナ前の状況に完全に復することは困難という想定の下、事業運営を考えていく必要がある。
品不足	PBシャンパンの拡販、酒類以外の取扱商品の品揃え強化等を進めていく。
人手不足	配達人員の確保に関し、配送事業者との獲得競争が激しくなっているが、多様な働き方の提供や業務内容に見合う報酬体系を整備して配達人材の確保に努めている。
認知拡大	SNS活用によるカクヤスファン層の醸成に取組み中。
資本政策の課題	
資本力強化	利益を着実に積み上げることは勿論、財務体質の強化に向け、中長期の観点での資本政策を検討していく。
株式流動性の向上	個人投資家向けIRウェブサイトの開設、既存株主に当社事業を理解してもらう取組みなどを通じて流動性の向上を進める。
ESG、ガバナンス上の課題	
気候変動対応	グループ内で今期立ち上げたサステナビリティ準備プロジェクトを来期以降も進展させていく。 (スタンダード市場では必須とされていない) TCFD提言に基づく情報開示にも取組み中。
コーポレートガバナンス	改訂版CGコード全原則のより高水準な適用、補充原則の全適用に向け取組み中。

# APPENDIX



# ■ 拠点数

## (カクヤスグループ<sup>o</sup> 拠点一覧)



	2022.03期		2023.03期		
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
<b>(1) 業務用拠点</b>					
(株) カクヤス					
業務用センター	9	9	9	9	
業務用店舗 (kakuyasu class)	5	5	5	5	
業務用小型倉庫 ※1	22	24	25	25	
合計	36	38	39	39	0
ダンガミ・サンノー (株)					
業務用センター	2	2	2	2	
業務用店舗 (酒のガリバー 等) ※2	11	11	6	6	
業務用小型倉庫	1	1	1	1	
合計	14	14	9	9	0
サンノー (株)					
業務用店舗 (リカーズABC)	1	-	-	-	
<b>(2) 家庭用拠点</b>					
(株) カクヤス					
WEBセンター・社内物流センター (平和島)	2	2	2	2	
店舗1. (なんでも酒やカクヤス) ※3	137	139	154	152	
店舗2. (KYリカー) ※3	29	25	10	9	
店舗3. (KAKUYASU SELECT)	2	2	2	2	
店舗4. (CORK)	1	1	1	1	
小型倉庫	19	18	19	19	
合計	190	187	188	185	0
ダンガミ・サンノー (株)					
店舗1. (なんでも酒やカクヤス) ※2	-	-	5	5	
合計	-	-	5	5	0
<b>(3) その他の拠点</b>					
明和物産 (株)					
小型倉庫	8	8	8	8	

※1. (株) カクヤスの業務用小型倉庫は2021年3月期は14店舗であり、2023年3月期の12月末現在は25店舗となり、2021年3月期と比較し11店舗増加しております。

※2. ダンガミ・サンノー (株) の業務用店舗のうち5店舗は「なんでも酒やカクヤス」のブランド変更により家庭用拠点へ移動しております。

※3. (株) カクヤスの店舗2. (KYリカー) の20店舗はブランド変更により店舗1. (なんでも酒やカクヤス) へ移動しております。



## ■ 年次決算数値の推移

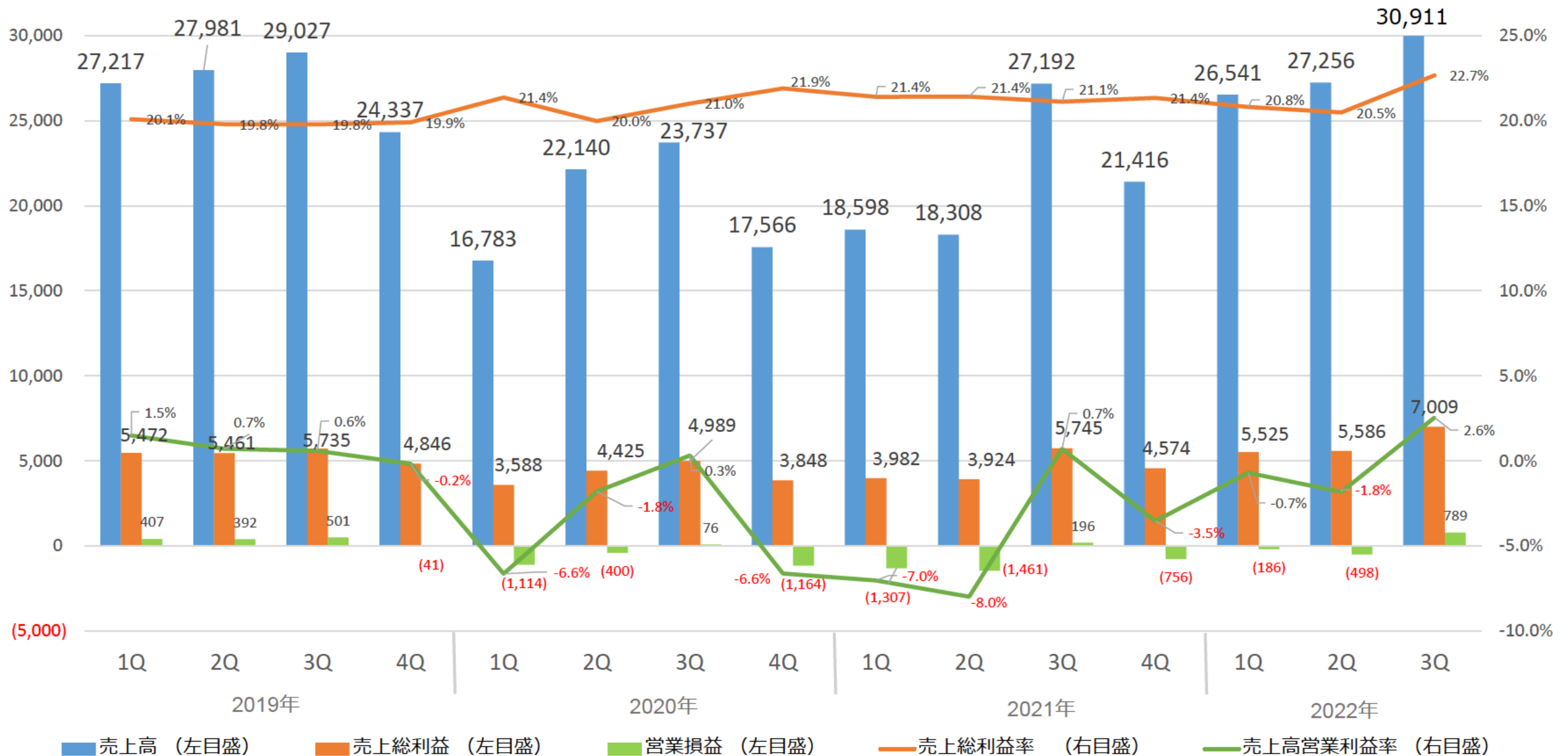
(単位: 百万円)

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期予
売上高	110,044	108,715	108,562	80,226	85,514	114,000
売上総利益	20,747	21,562	21,514	16,850	18,225	-
営業利益	927	1,779	1,259	▲ 2,602	▲ 3,328	400
経常利益	1,071	1,806	1,259	▲ 1,728	▲ 2,898	400
税金等調整前当期純利益	642	1,282	892	▲ 1,888	▲ 3,100	-
親会社株主に帰属する当期純利益	434	745	513	▲ 1,601	▲ 2,808	200
売上債権	9,078	8,762	6,843	4,745	5,586	
棚卸資産	4,202	4,215	4,290	3,610	4,274	
仕入債務	14,251	13,727	12,569	10,079	11,393	
現預金	2,347	1,840	3,489	2,525	2,748	
有利子負債	5,879	6,462	7,214	9,983	11,763	
純資産	4,315	4,682	5,162	3,212	2,307	
総資産	28,551	28,920	28,472	26,994	28,541	
営業キャッシュフロー	380	1,975	1,945	▲ 1,634	▲ 2,442	
投資キャッシュフロー	▲ 3,704	▲ 1,700	▲ 1,195	▲ 1,385	▲ 1,056	
財務キャッシュフロー	2,338	1,127	899	2,055	3,723	



# 四半期毎売上高、売上総利益、営業損益の推移

(単位: 百万円)





## 注意事項

本資料は当社についての情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行っていただくようお願いいたします。

資料の内容については、現在入手可能な情報から説明しておりますが、事業環境が大きく変化することも考えられます。

従いまして、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを、あらかじめご承知おきください。

お問い合わせ先

株式会社カクヤスグループ  
グループ経営管理部

[ir@kakuyasu-group.co.jp](mailto:ir@kakuyasu-group.co.jp)

<https://www.kakuyasu-group.co.jp/>